



TITLE:

情報センター業務とその業務継続性について

AUTHOR(S):

茶谷, 祥太郎

CITATION:

茶谷, 祥太郎. 情報センター業務とその業務継続性について. 京都大学大学院工学研究科技術部報告集 2017, 14: 37-37

ISSUE DATE:

2017-06

URL:

<https://doi.org/10.14989/226020>

RIGHT:

情報センター業務とその業務継続性について

茶谷 祥太郎
共通支援グループ

1. はじめに

工学研究科附属情報センターでは、学内・学外向けに様々なサービスを提供しており、その安定的なサービスの稼働に努めている。現在稼働中のサービスが停止してしまう要因としては様々なものが挙げられるが、中でも長期間に渡ってサービスが停止してしまう可能性のある要因については、あらかじめ緊急復旧案を策定し、復旧手順の訓練を行っておくことが重要である。本発表では情報センターが提供しているサービスを紹介し、その業務継続性についての報告を行う。

2. 情報センターが提供しているサービス

情報センターが提供しているサービスとしては、工学 Web サイト、事務用ファイルサーバ(Q/R ドライブ)、事務用シンククライアントシステム、研究成果データベース、専攻/研究室 SNS(educo)、工学部/工学研究科シラバス、アンケートシステム、各種ソフトウェアサイトライセンス等がある。これらのサービスのうち、工学 Web サイト、Q/R ドライブ、シンククライアントシステムについては常時稼働していることが強く望まれるため、優先的に対策を行う必要がある。

3. サービスが停止する要因

情報センターが提供しているサービスは様々な要因で停止する可能性がある。一例を挙げると、サーバのハードウェア故障、ネットワークトラブル、天災(地震、雷、大雨、火災等)によるサーバ機器の故障、パンデミックによる人的被害等が挙げられる。これらの要因については、発生した際の影響度、対策にかかる予算等を考慮に入れ、対応可能なものについて対策を立てておく必要がある。

4. 業務継続計画

全てのサービスが抱える全ての障害に対して確実な対応ができるのであればそうすることが望ましいが、予算的、人力的な制約があるため、全ての障害に完全に対応することは通常不可能である。業務継続計画とは、「重要度の高いサービス」が「長期間に渡り停止すること」を防ぐための計画である。業務継続計画を策定するため、情報センターでは工学 Web サイト、Q/R ドライブ、シンククライアントシステムを重要度の高いサービスとして位置づけ、地震、サーバのハードウェア故障を長期間に渡り停止する可能性がある要因として検討することとし、それぞれ対応計画を策定した。

5. 今後の展望

情報センター業務継続計画のうち、地震対策については次年度以降に免震装置の設置やクラウドサービスを利用することを検討している。サーバのハードウェア故障対策については、関連サーバの復旧対策手順案を作成し、復旧訓練を行う予定としている。